



発行: オープンアクセスリポジトリ推進協会
jpcoar@nii.ac.jp

特集! オープンアクセスウィーク2018

2018年10月22日～28日はオープンアクセスウィークでした。今年のテーマは、“Designing Equitable Foundations for Open Knowledge”（オープンナレッジに向けて公正な基盤を設計する）。あらゆる国のあらゆるステークホルダーにも、公平に、必要な情報を得られるオープンな仕組みの構築が必要であるという意味です。

JPCOARでも、オープンアクセスウィークに合わせてポスターやガーランドのテンプレートを作成・公開しました。また、各地でオープンアクセス周知のための様々な取り組みが行われました。その一部をご紹介します。



千葉大学附属図書館
ポスター展示、文庫本ブックカバー配布



大阪市立大学
ポスター掲示



北海道大学附属図書館
講座・セミナーの実施
・午後の講座「オープンアクセスとハゲタカジャーナル」
・ミニセミナー「ハゲタカジャーナルにご用心」の実施



小樽商科大学
Barrel10周年記念インタビュー公開
特製文庫本カバー・クリアファイル配布



神戸大学附属図書館
抜き刷り送付用の封筒・twitterでの広報等



JPCOAR
オリジナルポスター作成



鳥取大学附属図書館
ガーランド装飾、パネル展示

オープンアクセスウィークは毎年開催されている世界的なイベントです。まだ実施したことがない機関の皆さまも他機関の取り組みや以下のサイトを参考に、来年はぜひ参加をご検討ください。

- Open Access Week :<http://www.openaccessweek.org/>
- JPCOAR オープンアクセスウィーク2018特設サイト:https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=102

特集！ 2018年10大トピック（国内動向）

2018年も残りわずかとなりました。CoCOAR編集担当が選ぶオープンアクセスやオープンサイエンスに関連した今年のトピックを紹介します。

1. 内閣府「統合イノベーション戦略」公表

内閣府は、6月15日閣議決定に基づき「統合イノベーション戦略」を公表し、オープンサイエンスのためのデータ基盤の整備において「リポジトリの整備及び展開：研究データの管理・公開・検索を促進するシステムを2020年度から運用開始」「研究データの管理・利活用についての方針・計画の策定等」「人材の育成及び研究データ利活用の実態把握」を目標に掲げています。

これを受け、JPCOARは8月7日に「統合イノベーション戦略についての見解」を公開しました。

当該戦略は研究成果の公開と流通というJPCOARの使命に合致しているものの、具体的なアクションとそれを担う主体が明確でない指摘のうえ、JPCOARは主として研究データの公開を担い、当面は3点の取組を優先的に行うこと、管理・保存は図書館以外の関係者との連携が必要なこと、推進のための中長期計画を策定することを表明しました。

内閣府「統合イノベーション戦略」

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/index.html>

JPCOAR「統合イノベーション戦略についての見解」

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=74#_href_243

2. NII Research Data Cloudの開発

上記の動きに連動して、NIIオープンサイエンス基盤研究センターでは、NII Research Data Cloudの開発を進めています。

研究データ管理基盤のGakuNin RDM、データ公開基盤の次期JAIRO Cloud (by WEKO3)、データ検索公開基盤のCiNii Researchの3つのシステムで構成され、2020年度本稼働を目標としております。

NII研究データ基盤の概要 <https://rcos.nii.ac.jp/service/>

3. 研究データをめぐる動き

AMED、データマネジメントプランの提出義務化発表

<https://www.amed.go.jp/koubo/datamanagement.html>

内閣府「国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン」公表

<https://www8.cao.go.jp/cstp/stsonota/datapolicy/datapolicy.html>

4. ハゲタカジャーナル（粗悪学術誌）の報道

毎日新聞で4月からハゲタカジャーナルに関する報道

が続いており、特に9月3日には「粗悪学術誌 論文投稿、日本5000本超 業績水増しか」という報道がありました。

これに対し各大学も本格的に対応を始め、九州大学、名古屋大学、新潟大学の取組が報道されています。

5. OA方針策定機関数が25機関に

JPCOARで把握する国内のオープンアクセス方針策定機関数が10月に25機関に到達しました。

OA方針・実施要領 リンク集

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=53

6. デジタルアーカイブ国際規格IIIFへの対応

国立国会図書館デジタルコレクションがIIIFに対応したほか、人文学オープンデータ共同利用センターからIIIF関係の各種ソフトウェアが公開されています。

JPCOAR参加機関では、京都大学、九州大学、近畿大学、慶應義塾大学、国文学研究資料館、国立国語研究所、東京大学、千葉大学のデジタルアーカイブなどでIIIFに対応した画像公開を行っています。

10月にJANULシンポジウムが開催され、先行事例の報告や二次利用のライセンスの議論も行われました。

7. JPCOARの諸活動

設立3年目を迎え、JPCOARのこれまでの取組に加え、新たな取組に挑戦する1年でした。

2月 OA方針策定機関実態調査報告書公開
13th IDCCに参加

3月 RDA 11th Plenary Meetingに参加

5月 次期JAIRO Cloud開発共同タスクフォース報告公開
JPCOARスキーマガイドラインWebサイト公開
COAR Annual Meeting 2018に参加

6月 Japan Open Science Summit 2018に協力、報告実施

8月 JPCOARスキーマ Ver.1.0.1リリース
統合イノベーション戦略についての見解、公開
教材 研究データ管理サービスの設計と実践、公開

8-9月 JPCOARスキーマ説明会開催

9月 ETD 2018 TaiwanでBest Poster Award受賞

10月 DSpaceからJAIRO Cloudへの移行相談会開催
国際オープンアクセスウィーク2018
図書館総合展でフォーラム開催

11月 中期ビジョン&中期計画2019-2021年度（案）公開

詳しくはJPCOARのサイトからご覧いただけます。

特集！ 2018年10大トピック（海外動向）

8. Science Europe、cOAlition Sを開始

Science Europeは、11の公的助成機関（その後12に増加）から公的助成を受けた研究成果物の完全かつ即時オープンアクセスを目指すイニシアチブcOAlition Sを開始すると発表しました。APCに上限を設ける、ハイブリッドOAは認めないといった野心的な方針を掲げています。

この動きがどこまで広がるのか注目されます。

What is cOAlition S?

<https://www.coalition-s.org/about/>

9. ドイツ・DEALプロジェクトとエルゼビア社の交渉、今回も不調

昨年も不調に終わったドイツのDEALプロジェクトとエルゼビア社の交渉ですが、2018年の交渉も不調に終わり、7月から参加機関はエルゼビア社のジャーナルにアクセスできなくなっています。

スウェーデンのBibsam Consortiumも5月にエルゼビア社との契約更新しないことを発表しています。

Verhandlungen von DEAL und Elsevier: Elsevier-Forderungen sind für die Wissenschaft inakzeptabel

<https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/verhandlungen-von-deal-und-elsevier-elsevier-forderungen-sind-fuer-die-wissenschaft-inakzeptabel-440/>

10. Google、Dataset Search（β版）公開

GoogleがDataset Search（ベータ版）の公開を発表しています。Microsoft、Google、Yahoo!の3社が立ち上げたschema.orgのスキーマに基づいたデータ記述方法ガイドを公開しており、その採用を推奨しています。

Google Dataset Search（ベータ版）

<https://toolbox.google.com/datasetsearch>

本記事作成にあたっては国立国会図書館のカレントアウェアネス・ポータル、科学技術振興機構のSTI Updatesを参考にさせていただきました。両機関の情報収集・発信事業に感謝いたします。

（広報普及作業部会）

連載：オープンアクセス論文紀行

本連載は、機関リポジトリで公開されている論文から毎回テーマを決めて、専門家以外の方にとっても親しみやすい日本語文献を紹介しています。2回目の今回のテーマは“恋愛”です。次のページは、そのまま大きく印刷してポスターのように掲示できるよ

う構成しています。よろしければ閲覧室に貼り出すなど、教員・学生みなさんにオープンアクセス文献の存在に慣れ親しんでいただくための一助としてお使いください。

タレコミ募集！

本連載はJPCOAR参加機関のみなさんの推薦で記事を作っていきます。次回テーマは、

「ミステリー作家とその作品」

自機関のリポジトリ上の文献の自薦も大歓迎。奮ってご協力よろしくお願ひします！

投稿フォーム↓（2019年2月8日マデ）

<https://goo.gl/forms/c2wfh6g2f13bbGbK2>





オープンアクセス 論文紀行

J P C O A R
オープンアクセスリポジトリ推進協会

Vol.2 恋愛

国内の多くの大学が、所属研究者の執筆文献を大学のウェブサイト(「機関リポジトリ」)で公開しています。その中には、専門家の方以外にも親しみやすい日本語文献もいっぱい！ 専用検索サイト JAIROであなたも楽しそうな文献を見つけてみませんか？

愛の源について(旭川医科大学)

国境を越えたビデオカセットのやりとり -ビデオに映される結婚式-(東北大学)

愛の現象学 ⅠⅢ(帯広畜産大学)

恋愛における告白の成否の規定因に関する研究(北星学園大学)

通学キャンパス立地環境の違いが大学生の浮気に対する態度に与える影響の検討(文教大学)

恋愛関係崩壊後の関係における交際内容に関する研究: Post-dating relationship と恋愛関係、異性友人関係との比較(北星学園大学)

恋葉・鬼妻をめぐる恋愛呪術伝承: 漢人の<走東方>からみた西南非漢民族の民族表象(2)(筑波大学)

配偶者の選択: 学生レポートより(富山短期大学)

近距離恋愛者のための対面愛着行動伝達メディア実現に向けた基礎的検討(北陸先端科学技術大学院大学)

日本における恋愛研究の動向(筑波大学)

現代の愛のかたち: ロマンティック・ラブ・イデオロギーはどこへ行ったか(立教大学)

西アフリカ、ブルキナファソにおける恋愛と結婚(総合地球環境学研究所)

片思いの求愛者と拒絶者に対する対人認知: 仮想場面法による第三者評定(大阪大学)

現代日本における若年男性のセクシュアリティ形成について: 「オタク」男性へのインタビュー調査から(首都大学東京)

LLブック写真版「はつ恋」(電子書籍版)(大阪女学院大学)

恋愛感情が視線行動に及ぼす影響(島根県立大学)

大学生の恋愛行動の進展(和光大学)

男女の愛情関係のスタイルークラスタ分析-(立正大学)

大学生の恋人関係における「ひとりになりたい」という感覚の生起過程(山口大学)

妻への愛情表現に伴う夫の羞恥感〜なぜ、素直に愛していると言えないのか〜(聖心女子大学)

恋人の性格特性に関する許容範囲(千葉科学大学)

恋愛関係が青年の発達に及ぼす影響— 多次元自我同一性尺度と恋人の有無・交際期間・愛情との関連から—(久留米大学)

大学生における浮気観と浮気・被浮気経験との関連(横浜国立大学)

青年期における未熟な恋愛関係について(横浜国立大学)

好意感情と恋愛感情の混同: 進化心理学的アプローチによる実験研究(広島修道大学)

女子大学生の対人関係ごとの居場所感について: 主観的幸福感との関連から(金城学院大学)

グリム童話と『日本の昔はなし』の比較: 一方的恋愛結婚について(三重大学)

結婚を希望しない女性大学生の特性(福山大学)

情動知能と異性関係スキルの関係(奈良教育大学)

恋愛における告白の成功・失敗の規定因(広島大学)

教育用簡易版恋愛感情尺度の作成(奈良教育大学)

恋愛や結婚に関する親とのコミュニケーションと大学生の結婚観との関連(広島大学)

はかなげな女の悲恋の物語: 夕顔・浮舟的女性像の系譜をたどって(甲南女子大学)

大学生の結婚相手の決め手に関する特徴(松山大学)



ご紹介している文献は、すべてJAIRO(<http://Jairo.nii.ac.jp>)から検索し、各大学のウェブサイト(機関リポジトリ)で全文を閲覧可能です。

JAIRO
Japanese Institutional Repositories Online

簡易検索 詳細検索 2018/08/09現在 695機関 2,946,565件

検索

すべて 本文あり

開催報告：地域共同リポジトリ

JAIRO Cloud移行ワークショップ(新潟)

2018年11月15日・16日の計2日間、上越教育大学にて「地域共同リポジトリJAIRO Cloud移行ワークショップ(新潟)」を開催しました。新潟県地域共同リポジトリからJAIRO Cloudへ移行する機関に移行作業を事前に体験してもらうとともに、機関リポジトリをとりまく最新動向について共有することを目的としたワークショップになります。参加機関は11機関、参加者は14名でした。

1日目は筆者よりオープンアクセスおよびオープンサイエンスの国内外の動向を紹介し、機関リポジトリに関連する包括的な内容を説明しました。続いてJAIRO Cloud作業部会員の山城陽介氏（上越教育大学）より移行ワークショップの趣旨の説明があった後、移行の体験作業が行われました。移行手順を示しながら、テスト環境で作業する参加者の疑問点をその都度解消する形式で進行しました。

2日目は筆者より1日目の説明内容から焦点を絞ったオープンアクセス方針、JPCOARスキーマ、研究データ、JPCOARの活動について紹介し、参考となる情報源を示しました。続いて山城氏より上越教育大学のオープンアクセス方針策定状況について紹介があり、他大学のオープンアクセスも踏まえた内容を説明しました。その後は参加者の方々が1日目の移

行体験で解決できなかった点に取り組む時間を経て、ワークショップは終了しました。

参加者のアンケートでは「実際の移行手順を体験することで、細かい注意点やエラー等の対応の仕方もわかり参考になりました。」といった声が寄せられました。

参加された多くの方が初めてJAIRO Cloudへデータ移行する作業を行い、苦戦されながらも取り組まれている様子でした。皆様の業務について、JPCOARは継続してサポートを行っていきます。

西村 恭佑（広報普及作業部会・富山大学）



参加報告：ETD 2018 Taiwan

2018年9月26日から28日にかけて台湾の国家図書館で開催された電子学位論文の国際会議ETD 2018 Taiwanに参加しました。NDLTD（Networked Digital Library of Theses and Dissertations）が主催しており、今回が21回目となります。アジアで開催されるのは2013年の香港、2015年のインドに続いて3回目です。香港で開催された際には、中山 知士さんによる日本での学位規則改正に関する報告が行われています。今回は、その後の状況も含めてポスター発表を行っています。

発表はタイトルは「The current state of doctoral theses published via Institutional Repositories in Japan」で、以下の4点を紹介しました。1.2013年の学位規則改正のポイント、2.機関リポジトリを通じた博士論文のメタデータ流通、3.2010年度から2016年度の機関リポジトリを通じた博士論文の全文公開状況、4.JPCOARとその諸活動の紹介です。ポスターはJPCOAR Webサイトで公開しています。参加者から2013年以前の状況や国立国会図書館と国立情報学研

究所の役割の違いなどについて質問が寄せられました。とくに学位論文データベースに関係のあるNDLTD、ProQuest、EBSCOの関係者からは流通プロトコルやメタデータについて質問を受けました。いずれのデータベースもOAI-PMHを通じた学位論文のメタデータ収集を行っており、日本の学位論文の状況について強い関心があるようでした。その影響もあってか、本ポスターは[Best Poster Award](#)を受賞しました。

ETDでは、学位論文を巡って、研究倫理教育、コンテンツの収集、テキストマイニングやメタデータなどさまざまなトピックの議論が行われました。特に興味深かったのが、台湾の事例です。日本のようにオープンアクセスを義務化しているわけではありませんが、研究倫理教育や優秀な学位論文の表彰事業により、オープンアクセスを選択する割合の増加したそうです。また、台湾では、国家図書館が国内の学位論文メタデータを集約し、NDLTDに提供していますが、そのメタデータに関する議論も、今後

日本での議論の参考になりそうです。改めて JPCOAR Webサイトで報告します。

本出張では台風の影響で飛行機が欠航するトラブルがあり、JPCOAR事務局および国立情報学研究所のご担当者さまには大変な負担をおかけしましたが、無事用務を終えることができました。ありがとうございます。

報告：「オープンサイエンス、どこからどう手をつけるか？」：JPCOARの中長期戦略」参加レポート

ヒタッ、ヒタッ、ヒタッ。みなさん何かの足音が近づいてきましたよ。何だ、何だ？「研究データ」だ！というような話を聴いてきましたので、レポートします。

2018年10月30日にパシフィコ横浜で開催された図書館総合展のフォーラム「オープンサイエンス、どこからどう手をつけるか？」:JPCOARの中長期戦略」に参加しました。当日は、JPCOARの中期ビジョン・中期計画、次期JAIRO Cloud、OA方針策定、研究データ管理（Research Data Management: RDM）学習教材についての発表がありました。発表のプレゼンテーション資料はJPCOARのWebサイト（https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=49#_href_280）にありますので、詳しくはそちらからダウンロードしてご覧下さい。最後の質疑応答では、次期JAIRO Cloudのリリース時期や、研究者へのニーズ調査の有無、OA方針に研究データを含めているかなどの質問がありました。また、研究データをオープンにするかクローズにするかに関わらず、まずはRDMが必要だという意見も出されました。



編集後記

今年も残すところあとわずか、2018年の締めくくりとなる今号では「2018年10大トピック」など今年1年の振り返りとなるような内容をお届けいたしました。皆さまにとって今年はどうの年になりましたでしょうか？

CoCOARでは来年もいろいろなニュースやイベントの様子などをお届けいたします。引き続きのご愛読、どうぞよろしくお願い申し上げます！

ざいます。JPCOARの活動を国際的にアピールできたことに安心しております。また、ポスター作成にご協力いただいた国立国会図書館の渡部淳さまやJPCOARメタデータ普及タスクフォースのみなさまにも改めて感謝申し上げます。

大谷 周平（広報普及作業部会・琉球大学）

さて、以上の話を聴いて、大学図書館員はリポジトリを運用している都合上、研究データを取り扱っていくことは避けて通れないだろうと、ほんのりと思いました。たとえば、JPCOARの中期ビジョンには「オープンサイエンスの推進」とありますし、次期JAIRO Cloudはデータリポジトリとしても使えるようになるということでした。また、RDMの学習教材が千葉大学や研究データタスクフォースで作成されているということでした。そうなのです。私が知らないところで、既にオープンサイエンスのインフラの整備は着々と進んでいたようなのです。

そんなこんなで、私は若干憂鬱になったのですが、リポジトリを担当しているみなさんは大丈夫ですか？ 得体の知れない研究データを扱うことになるなんて!とお思いになりませんか? でも大丈夫（と不安に駆られながらも、私は思っています）。だって、JPCOARの中期ビジョンを見る限り、研究データの「オープンの部分」については後押ししてくれるはずですから。

レポートしますと宣言しながら、レポートになっていなかったかもしれませんが、最後にまとめます。そう遠くない未来、実際にリポジトリ担当者が、教員から研究データをもらい、ライセンスやメタデータを付与して、公開していくことになると思われます。この流れは変えられそうにありません。だから、まずは担当者同士一緒にRDMを勉強して、徐々に研究データを公開していきましょう。というのが、「オープンサイエンス、どこからどう手をつけるか？」という問いに対する回答であったのかなあと、何日か考えて行き着きました。

下城 陽介（JAIRO Cloud運用作業部会・上越教育大学）

Webサイト: <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/jpcoar/>



JPCOAR Newsletter: CoCOAR 第6号

2018年12月25日 発行

オープンアクセスリポジトリ推進協会

